

## 第 8 4 回

# トラック運送業界の景況感（速報）

平成 2 5 年 1 0 月～ 1 2 月 期

---

平成 2 5 年 1 0 月～ 1 2 月 期は、円安の進行により輸出企業を中心に業績が回復し、消費増税を控えた駆け込み需要による個人消費が好調であった。

日銀短観の 1 0 月～ 1 2 月 期調査においては、大企業の製造業・非製造業をはじめ、中小企業の製造業・非製造業にいたるまで D I がプラスとなるなど、景気回復が中小企業にまで浸透しつつあることが確認された。

このような中、トラック運送業界の景況感の判断指数は + 1 2 となり、前回（▲ 1 4）から大幅に改善した。

今後は、輸送数量が引き続き高い水準で推移する一方、ドライバーが十分確保できない傾向が見られ、需給関係がひっ迫する見通しである。

軽油価格の高止まりによる燃料費の増加、人材不足による人件費上昇等の輸送原価の上昇により、運賃・料金の引上げ交渉を開始する事業者が存在するものの、消費増税後の反動への懸念が残る。

---

平成 2 6 年 2 月 7 日

公益社団法人 全日本トラック協会

## 1. 今回（平成25年10月～12月期）の状況

### ①概況

平成25年10～12月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は34%（前回21%）、「悪化」とした事業者は22%（前回32%）で、判断指標は12となり、前回（▲14）より26ポイント改善した。

### ②特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が25%、「増加」とする事業者が32%で、判断指標は+2となり、前回（+6）から4ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が28%、「増加」とする事業者が33%で、判断指標は0となり、前回（▲10）よりも10ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が26%、「増加」とする事業者が28%で、判断指標は▲2となり、前回（▲10）から8ポイント改善した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が9%、「増加」とする事業者が46%で、判断指標は+39となり、前回（+23）から16ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が16%、「増加」とする事業者が45%で、判断指標は+30となり、前回（+28）より2ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が24%、「増加」とする事業者が32%で、判断指標は+6となり、前回（▲8）から14ポイント改善した。

### ③一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が15%、「増加」とする事業者が42%で、判断指標は+29となり、前回（+5）より24ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が22%、「増加」とする事業者が41%で、判断指標は+19となり、前回（0）から19ポイント改善。営業利益は「減少」とする事業者が33%、「増加」とする事業者が25%で、判断指標は▲9となり、前回（▲29）より20ポイント改善した。

### ④運賃水準

運賃水準は、宅配貨物は+11（前回▲13）と大幅に改善、宅配以外の特積貨物は+23と前回（+15）より8ポイント改善、一般貨物は▲2と前回（▲10）より8ポイント改善した。

### ⑤実働率等

実働率は+21（前回+8）と13ポイント改善、実車率は+20（前回+3）と17ポイント改善した。雇用状況（人手の過不足）は+66（前回+54）12ポイント上昇し、依然として不足感が強い。採用状況は+1（前回▲1）で指標は2ポイント改善し、所定外労働時間は+17（前回+8）と9ポイント増加している。

保有車両台数は+1（前回▲2）で3ポイント改善、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は+12（前回+2）で10ポイント上昇した。

## ⑥地域別および規模別、取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、前回まで相対的に指標の水準が良かった北陸信越が継続して水準が良く、中国も水準を上げた。

事業者の規模別では、大規模事業者と中規模事業者は大幅に水準を上げている。また小規模事業者も前回より改善し水準がプラスに近づいているなど、規模を問わず改善傾向が見られる。

主な取扱い品目別についても改善傾向にあるが、特に機械関連貨物、消費関連貨物は前回よりも大幅に改善している。

## 2. 今後（平成26年1月～3月期）の見通し

### ①概況

平成26年1～3月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は+7で、今回から5ポイント下げる見込み。

### ②特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量及び営業収入は増加、営業利益はわずかに増加の見込みである。

宅配以外の特積貨物は、輸送数量は増加、営業収入はやや増加、営業利益は僅かに増加の見込みである。

### ③一般貨物

一般貨物は、輸送数量はほぼ横ばい、営業収入は僅かに減少、営業利益はやや減少の見込みである。

### ④運賃水準

宅配貨物は横ばいの見込み、宅配以外の特積貨物と一般貨物は僅かに改善の見込みである。

### ⑤実働率等

実働率、実車率はほぼ横ばいの見込みである。

雇用状況（人手の過不足）は指標の水準を上げ、引き続き不足感がある見込みである。採用状況は僅かに改善、所定外労働時間はほぼ横ばいの見込みである。

保有車両台数はやや改善、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）はほぼ横ばい。経常損益はやや悪化の見込みである。

## ⑥地域別および規模別、取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、近畿で20ポイント以上、北海道で7ポイント以上指標を上げる見込みであるが、その他の地域は指標を下げる見込みである。

事業者の規模別では、大規模事業者においては横ばい、中規模及び小規模の事業者において指標を下げる見込みである。

主な取扱い品目別では、機械関連貨物及び消費関連貨物は悪化するものの、それ以外の品目においては、横ばいの見込みである。

### 3. 特積貨物の概況

項目		概況						
		0%	20%	40%	60%	80%	100%	
宅	輸送数量	前回	2	27	51	16	4	(6)
		今回	0	32	43	21	4	(2)
		見通	2	28	54	15	0	(17)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より4ポイント悪化した。</li> <li>・規模別では大規模事業者は前回から横ばい、中規模事業者と小規模事業者は悪化している。</li> <li>・今後は水準を上げる見込み。</li> </ul>						
配	営業収入 (売上高)	前回	0	22	49	24	4	(-10)
		今回	0	33	39	24	4	(0)
		見通	0	29	58	13	0	(16)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より10ポイント改善した。</li> <li>・規模別では大規模事業者と中規模事業者は前回から改善しており、小規模事業者はやや悪化している。</li> <li>・今後は水準を上げる見込み。</li> </ul>						
貨	営業利益	前回	2	20	49	22	6	(-10)
		今回	0	28	46	22	4	(-2)
		見通	0	22	60	16	2	(2)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より8ポイント改善した。</li> <li>・規模別では中規模事業者と小規模事業者は前回から改善しており、大規模事業者は悪化している。</li> <li>・今後は水準を僅かに上げる見込み。</li> </ul>						
物	運賃・料金の水準	前回	0	6	75	19	0	(-13)
		今回	0	22	70	7	0	(11)
		見通	0	18	76	7	0	(11)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より24ポイント改善した。</li> <li>・規模別ではいずれの規模の事業者も前回から改善している。</li> <li>・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</li> </ul>						

#### 【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。  
第84回調査は、平成26年1月9日に、モニター  
に対して調査開始。平成26年2月4日回収分まで  
を集計。

	特積	一般	回答事業者 全体
回収数	78	606	650

※一部回答事業者の重複あり

項 目		概 況						
		0%	20%	40%	60%	80%	100%	
宅配	輸送数量	前回	2	37	43	18	0	(23)
		今回	4	42	44	8	1	(39)
		見通	6	44	46	0	0	(51)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より16ポイント改善した。</li> <li>・規模別ではいずれの規模の事業者も前回から改善している。</li> <li>・今後は水準を上げる見込み。</li> </ul>						
以外	営業収入 (売上高)	前回	2	41	38	18	0	(28)
		今回	3	42	39	13	3	(30)
		見通	4	41	44	8	3	(35)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より2ポイント改善した。</li> <li>・規模別では大規模事業者は前回から改善、小規模事業者は横ばい、中規模事業者は悪化。</li> <li>・今後はやや水準を上げる見込み。</li> </ul>						
の特	営業利益	前回	0	23	51	22	5	(-8)
		今回	1	31	44	20	4	(6)
		見通	1	32	42	21	3	(8)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より14ポイント改善した。</li> <li>・規模別ではいずれの規模の事業者も前回から改善している。</li> <li>・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</li> </ul>						
積貨	運賃・料金の水準	前回	0	22	71	7	0	(15)
		今回	0	31	62	6	1	(23)
		見通	0	36	56	9	0	(27)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より8ポイント改善した。</li> <li>・規模別では大規模事業者と中規模事業者は前回から改善、小規模事業者は悪化。</li> <li>・今後は水準を僅かに上げる見込み。</li> </ul>						

凡例

	<p>大幅に増加・上昇・好転・人手不足 +2点</p> <p>やや増加・上昇・好転・人手不足 +1点</p> <p>横ばい 0点</p> <p>やや減少・低下・悪化・人手過剰 -1点</p> <p>大幅に減少・低下・悪化・人手過剰 -2点</p>	<p>(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。</p> <p>(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。</p>
--	---	---

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1～+2、横ばい0、減少・悪化-1～-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

$$A \text{ (設問Aの回答者数)} = a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + a_5 \text{ (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)}$$

$$\text{指標} = \{ (+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5) \} \div A \times 100$$

#### 4. 一般貨物の概況

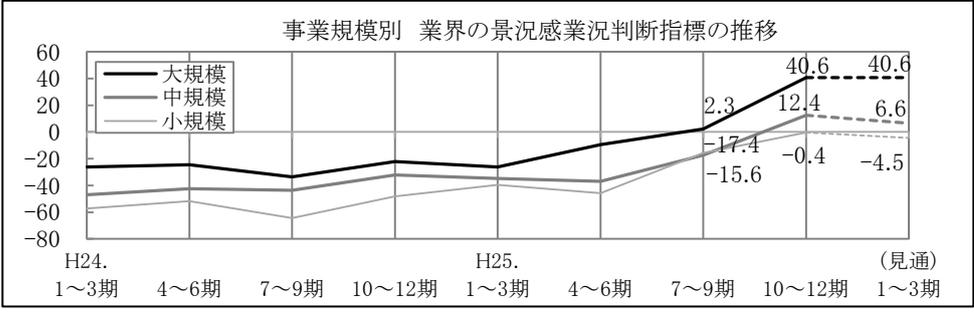
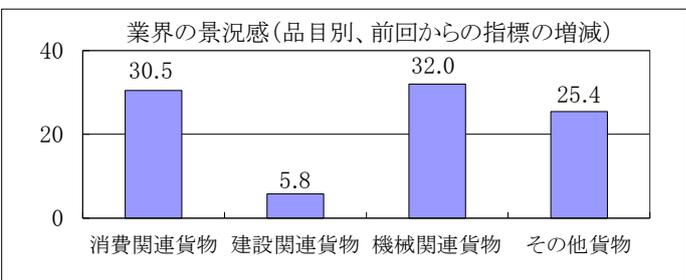
項目	概況						
	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
輸送数量 (全体)	前回	2	31	41	21	5	(5)
	今回	4	38	43	13	2	(29)
	見通	3	37	47	12	1	(27)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より24ポイント改善した。</li> <li>・地域別では近畿、中国、九州が改善している。品目別では機械関連、消費関連が改善している。</li> <li>・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</li> </ul>						
営業収入 (売上高)	前回	2	30	39	24	5	(0)
	今回	3	38	37	20	2	(19)
	見通	4	35	45	17	2	(16)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より19ポイント改善した。</li> <li>・地域別では中部、近畿、中国、九州が前回から改善している。品目別では特に機械関連が改善している。</li> <li>・今後は水準を僅かに下げる見込み。</li> </ul>						
営業利益	前回	1	17	39	34	8	(-29)
	今回	2	23	42	28	5	(-9)
	見通	1	21	45	29	4	(-15)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より20ポイント改善した。</li> <li>・地域別では全地域で改善しているが、特に関東、九州が改善している。品目別では特に機械関連が改善。</li> <li>・今後は水準をやや下げる見込み。</li> </ul>						
運賃・料金の水準	前回	0	7	78	13	2	(-10)
	今回	0	12	76	11	2	(-2)
	見通	0	15	73	11	1	(1)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より8ポイント改善した。</li> <li>・地域別では全地域改善しているが、特に中国が改善している。品目別では建設関連が改善している。</li> <li>・今後は水準を僅かに上げる見込み。</li> </ul>						

## 5. 共通の概況

項目	概況					
	0%	20%	40%	60%	80%	100%
実働率	前回	1	28	50	18	2 (8)
	今回	2	33	51	12	2 (21)
	見通	2	31	54	12	2 (20)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より13ポイント改善した。</li> <li>・地域別では近畿、中国、九州が前回から改善している。品目別では特に機械関連が前回から改善している。</li> <li>・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</li> </ul>						
実車率	前回	1	22	57	16	3 (3)
	今回	2	29	56	11	1 (20)
	見通	2	30	56	12	1 (18)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より17ポイント改善した。</li> <li>・地域別では中国、九州が前回から改善している。品目別では特に機械関連が前回から改善している。</li> <li>・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</li> </ul>						
雇用状況 (人手の過不足)	前回		12	34	50	0 (54)
	今回		15	38	45	0 (66)
	見通		21	38	37	0 (77)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より12ポイント上昇した(不足感が高くなった)。</li> <li>・地域別では北陸信越、中部、四国、規模別では大規模事業者、中規模事業者の水準が高く、不足感がある。</li> <li>・今後は水準を上げる見込み。</li> </ul>						
採用状況	前回	1	14	73	9	3 (-1)
	今回	1	17	65	14	3 (1)
	見通	1	20	64	11	3 (5)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より2ポイント改善した。</li> <li>・規模別では大規模事業者が改善し、採用が増加している。</li> <li>・今後は水準を僅かに上げる見込み。</li> </ul>						
所定外労働時間	前回	1	19	68	11	1 (8)
	今回	2	25	62	10	1 (17)
	見通	1	25	63	10	1 (16)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より9ポイント増加した。</li> <li>・品目別では特に建設関連、機械関連において増加、規模別では特に大規模、中規模事業者において増加。</li> <li>・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</li> </ul>						

項目	概況						
	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
保有車両台数	前回	0	14	70	15	1	(-2)
	今回	0	14	74	11	1	(1)
	見通	0	18	73	8	1	(8)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より3ポイント改善した。</li> <li>・地域別では中国が前回より増加、規模別では大規模事業者が前回より増加している。</li> <li>・今後はやや水準を上げる見込み。</li> </ul>							
貨物の再委託 (下請運送会社への 委託割合)	前回	2	18	64	14	3	(2)
	今回	3	21	65	10	2	(12)
	見通	1	23	63	10	2	(12)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より10ポイント増加した。</li> <li>・地域別では近畿が前回より増加し、品目別では建設関連が、規模別では小規模事業者が前回より増加している。</li> <li>・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。</li> </ul>							
経常損益	前回	1	21	41	30	8	(-23)
	今回	2	26	40	28	4	(-7)
	見通	1	23	43	29	4	(-13)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より16ポイント改善した。</li> <li>・地域別、規模別、品目別においていずれも改善。特に地域は近畿、中国、四国、九州が前回から改善している。</li> <li>・今後は水準をやや下げる見込み。</li> </ul>							
業界の景況感	前回	1	20	47	27	5	(-14)
	今回	2	32	44	20	2	(12)
	見通	1	33	41	22	3	(7)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より26ポイント改善した。</li> <li>・地域別、規模別、品目別においていずれも改善。特に地域は北陸信越、中国、四国の水準が高い。</li> <li>・今後は水準をやや下げる見込み。</li> </ul>							

## 6. 事業者特性格別の特徴

事業者特性	特 徴																																								
①地域（注4）	<p>◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25年 7～9月期前回</th> <th>H25年 10～12月期今回</th> <th>H26年 1～3月期見通</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>北陸信越</td> <td>北陸信越</td> <td>近畿</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>四国</td> <td>中国</td> <td>北海道</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>中部</td> <td>四国</td> <td>中国</td> </tr> <tr> <td>4位</td> <td>北海道</td> <td>中部</td> <td>四国</td> </tr> <tr> <td>5位</td> <td>中国</td> <td>北海道</td> <td>北陸信越</td> </tr> <tr> <td>6位</td> <td>関東</td> <td>東北</td> <td>中部</td> </tr> <tr> <td>7位</td> <td>東北</td> <td>近畿</td> <td>東北</td> </tr> <tr> <td>8位</td> <td>近畿</td> <td>関東</td> <td>関東</td> </tr> <tr> <td>9位</td> <td>九州</td> <td>九州</td> <td>九州</td> </tr> </tbody> </table>		H25年 7～9月期前回	H25年 10～12月期今回	H26年 1～3月期見通	1位	北陸信越	北陸信越	近畿	2位	四国	中国	北海道	3位	中部	四国	中国	4位	北海道	中部	四国	5位	中国	北海道	北陸信越	6位	関東	東北	中部	7位	東北	近畿	東北	8位	近畿	関東	関東	9位	九州	九州	九州
	H25年 7～9月期前回	H25年 10～12月期今回	H26年 1～3月期見通																																						
1位	北陸信越	北陸信越	近畿																																						
2位	四国	中国	北海道																																						
3位	中部	四国	中国																																						
4位	北海道	中部	四国																																						
5位	中国	北海道	北陸信越																																						
6位	関東	東北	中部																																						
7位	東北	近畿	東北																																						
8位	近畿	関東	関東																																						
9位	九州	九州	九州																																						
②規模（注5）	<p>・大規模事業者、中規模事業者、小規模事業者いずれも、景況感は前回と比べ改善した。          ・今後は大規模事業者は横ばい、中規模事業者はやや悪化、小規模事業者はわずかに悪化する見込み。</p>  <table border="1"> <caption>事業規模別 業界の景況感業況判断指標の推移</caption> <thead> <tr> <th>事業規模</th> <th>H24. 1～3期</th> <th>H24. 4～6期</th> <th>H24. 7～9期</th> <th>H24. 10～12期</th> <th>H25. 1～3期</th> <th>H25. 4～6期</th> <th>H25. 7～9期</th> <th>H25. 10～12期</th> <th>H26. 1～3期 (見通)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大規模</td> <td>-20</td> <td>-25</td> <td>-30</td> <td>-25</td> <td>-15</td> <td>-10</td> <td>2.3</td> <td>12.4</td> <td>40.6</td> </tr> <tr> <td>中規模</td> <td>-45</td> <td>-50</td> <td>-55</td> <td>-45</td> <td>-35</td> <td>-30</td> <td>-17.4</td> <td>-0.4</td> <td>6.6</td> </tr> <tr> <td>小規模</td> <td>-60</td> <td>-65</td> <td>-70</td> <td>-55</td> <td>-45</td> <td>-40</td> <td>-15.6</td> <td>-4.5</td> <td>-4.5</td> </tr> </tbody> </table>	事業規模	H24. 1～3期	H24. 4～6期	H24. 7～9期	H24. 10～12期	H25. 1～3期	H25. 4～6期	H25. 7～9期	H25. 10～12期	H26. 1～3期 (見通)	大規模	-20	-25	-30	-25	-15	-10	2.3	12.4	40.6	中規模	-45	-50	-55	-45	-35	-30	-17.4	-0.4	6.6	小規模	-60	-65	-70	-55	-45	-40	-15.6	-4.5	-4.5
事業規模	H24. 1～3期	H24. 4～6期	H24. 7～9期	H24. 10～12期	H25. 1～3期	H25. 4～6期	H25. 7～9期	H25. 10～12期	H26. 1～3期 (見通)																																
大規模	-20	-25	-30	-25	-15	-10	2.3	12.4	40.6																																
中規模	-45	-50	-55	-45	-35	-30	-17.4	-0.4	6.6																																
小規模	-60	-65	-70	-55	-45	-40	-15.6	-4.5	-4.5																																
③品目（注6）	<p>・消費関連貨物を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げた。一般貨物の輸送量としてみると、特殊品の水準が相対的に高い。今後の水準は横ばいの見込み。          ・建設関連貨物を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準をやや上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、林産品、金属製品の水準が相対的に高い。今後は水準をわずかに下げる見込み。          ・機械関連を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、電気機械、輸送機械が水準を上げた。今後の水準は横ばいの見込み。          ・その他貨物を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げた。一般貨物の輸送数量としてみると、金属、化学薬品が水準を上げた。今後は水準をわずかに上げる見込み。</p>  <table border="1"> <caption>業界の景況感(品目別、前回からの指標の増減)</caption> <thead> <tr> <th>品目別</th> <th>指標の増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消費関連貨物</td> <td>30.5</td> </tr> <tr> <td>建設関連貨物</td> <td>5.8</td> </tr> <tr> <td>機械関連貨物</td> <td>32.0</td> </tr> <tr> <td>その他貨物</td> <td>25.4</td> </tr> </tbody> </table>	品目別	指標の増減	消費関連貨物	30.5	建設関連貨物	5.8	機械関連貨物	32.0	その他貨物	25.4																														
品目別	指標の増減																																								
消費関連貨物	30.5																																								
建設関連貨物	5.8																																								
機械関連貨物	32.0																																								
その他貨物	25.4																																								

(注4) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。

(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上

中規模事業者：21両以上100両以下

小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

## 7. 景況感一覽表

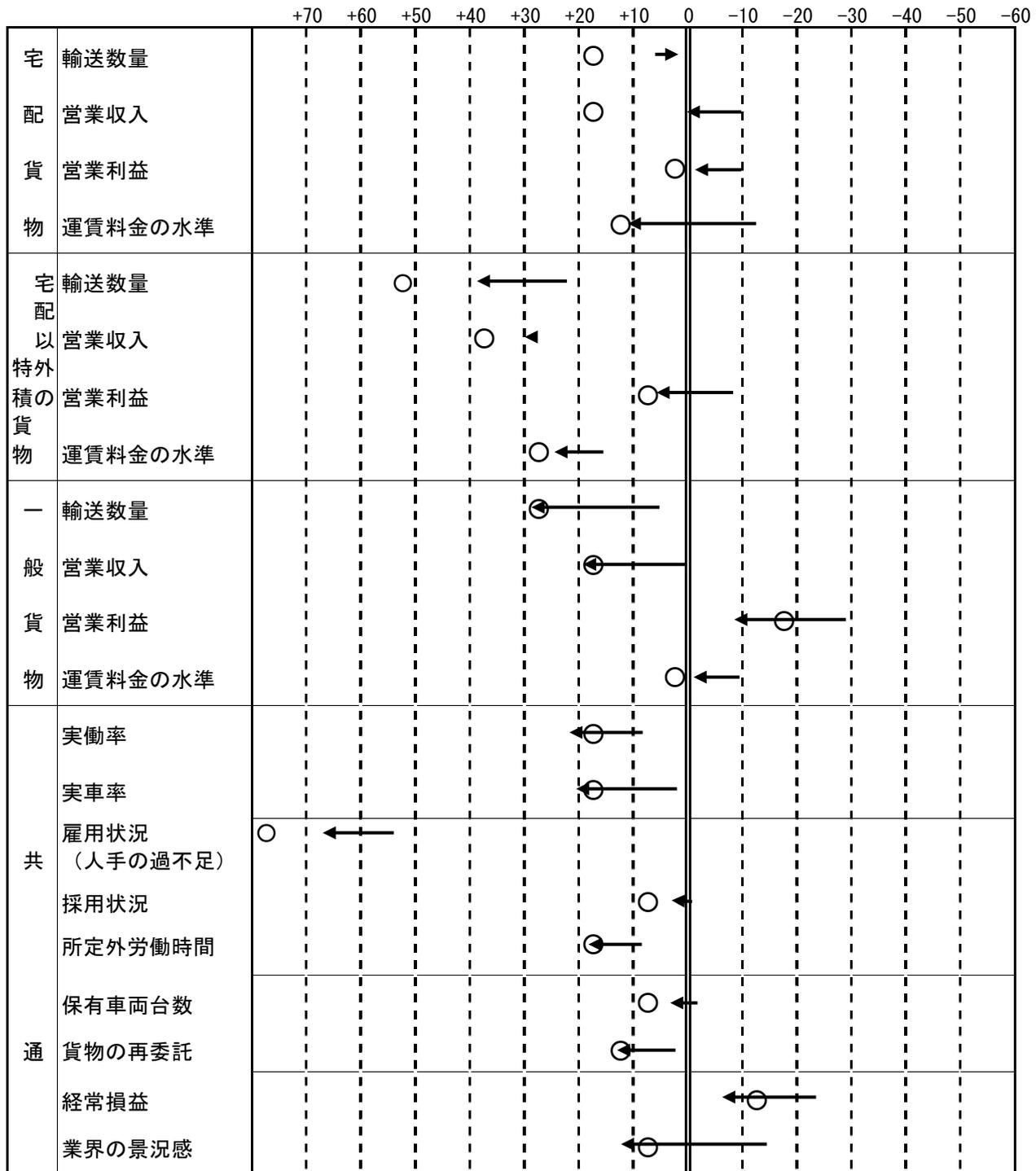
		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全体		→	→	→	→	↗	↗	→	→	→	↗	↗	↗	→	→	→
地域	北海道	→	↗	↗	→	↗	↗	→	→	→	→	→	↗	→	→	→
	東北	↗	→	→	↗	↑	↗	→	→	→	↗	↗	↗	→	↗	→
	北陸信越	→	↘	→	↗	↗	↗	→	→	→	↗	↗	↗	→	→	→
	関東	↓	→	↘	→	↘	→	→	→	→	→	↗	↗	→	→	→
	中部	→	→	→	↗	↗	↗	→	→	→	↗	↗	↗	→	↗	↗
	近畿	→	↗	↑	→	↗	↗	↘	→	→	→	↗	↗	→	→	↗
	中国	↘	→	→	↗	↗	↗	→	↗	→	→	↗	↗	→	→	→
	四国	→	→	→	↗	↗	↗	→	↗	→	↗	↗	↗	→	↗	↗
	九州	→	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
事業者規模	小規模事業者	↘	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	→	↗	→	→	→
	中規模事業者	↘	→	→	→	→	↗	→	→	→	↗	↗	↗	→	→	→
	大規模事業者	→	→	→	↗	↗	↗	→	↗	↗	↗	↗	↗	→	↗	↗
取り扱い品目	消費関連貨物	-	-	-	→	↗	↗	→	→	→	→	↗	↗	→	→	→
	建設関連貨物	-	-	-	→	→	↗	→	→	→	→	↗	↗	→	→	↗
	機械関連貨物	-	-	-	↗	↗	↗	→	↗	→	↗	↗	↗	→	↗	↗
	その他貨物	-	-	-	↗	→	↗	→	→	→	↗	↗	↗	→	→	→

(注7) 各項目は、関連する判断指標（前年同期に対する水準）から平均値を算出。  
 貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。  
 宅配貨物は品目別評価をしていない。

凡例 ・各欄は、左：前回（7-9月） 中央：今回（10-12月） 右：見通（1-3月）  
 ・矢印と判断指数の対応

判断指数	… -100 … -60 … -20 … +20 … +60 … +100 …
矢印	↓↓↓ ↓ ↘ → ↗ ↑ ↑↑

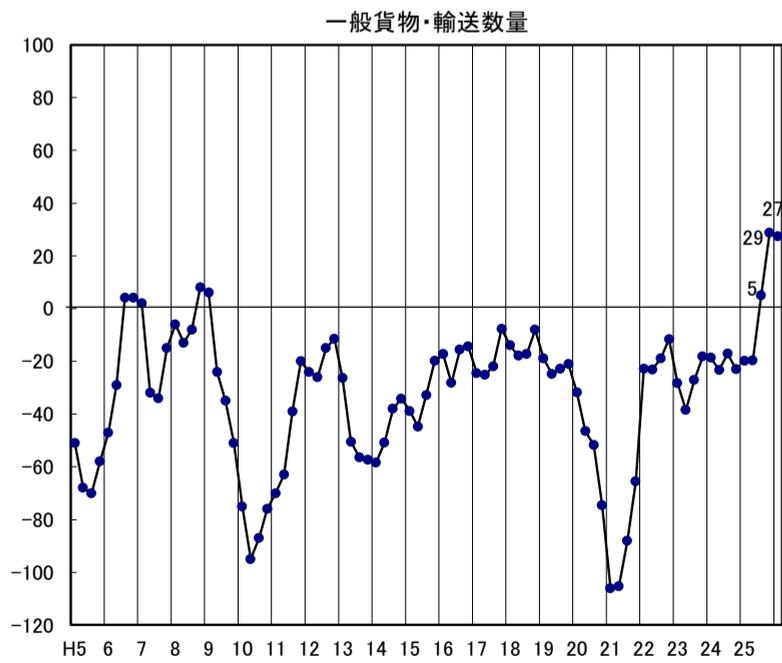
8. 業況判断指標の前回調査（平成25年7月～9月期）からの変化



凡例  
 矢元：7-9月期の実績      矢先：10-12月期の実績      白丸：1-3月期の見通

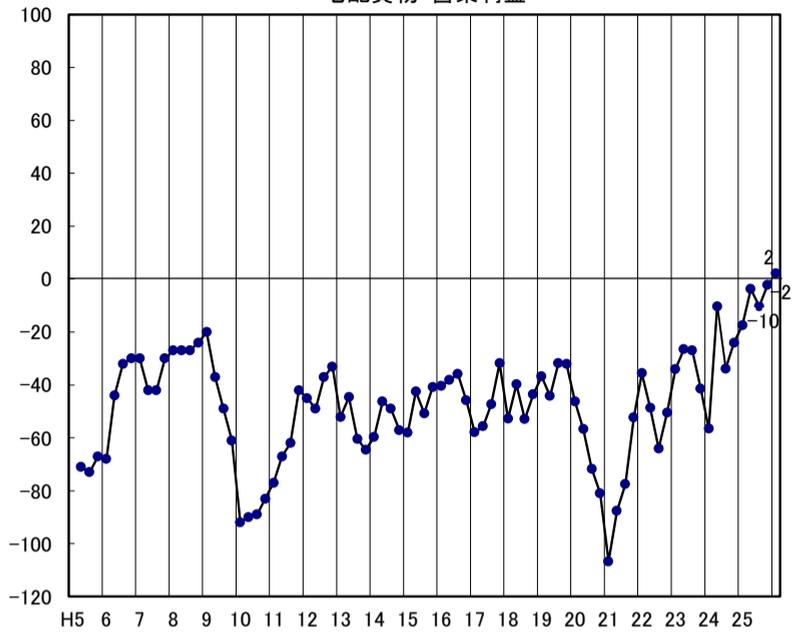
## 9. 業況判断指標の推移

平成5年第1四半期～平成25年第4四半期実績、平成26年第1四半期見通し



平成5年第1四半期～平成25年第4四半期実績、平成26年第1四半期見通し

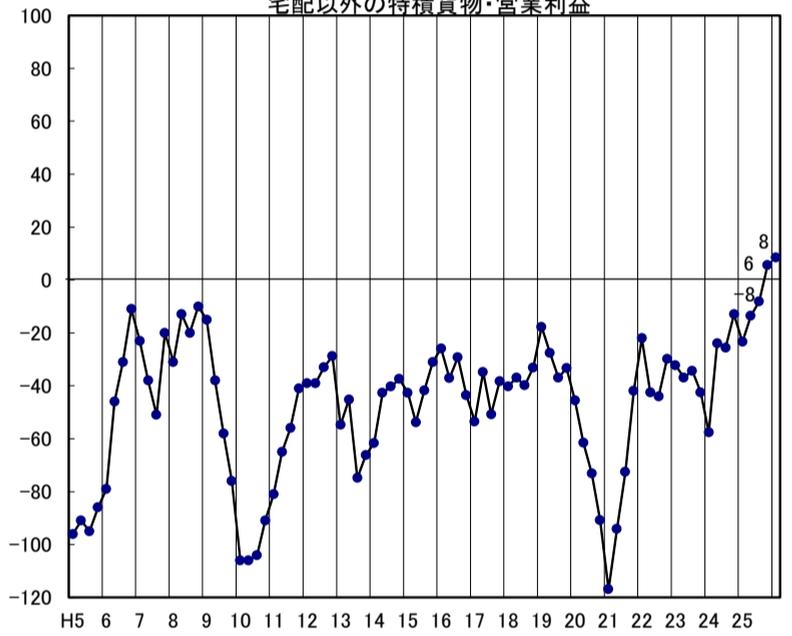
宅配貨物・営業利益



宅配貨物・運賃料金の水準



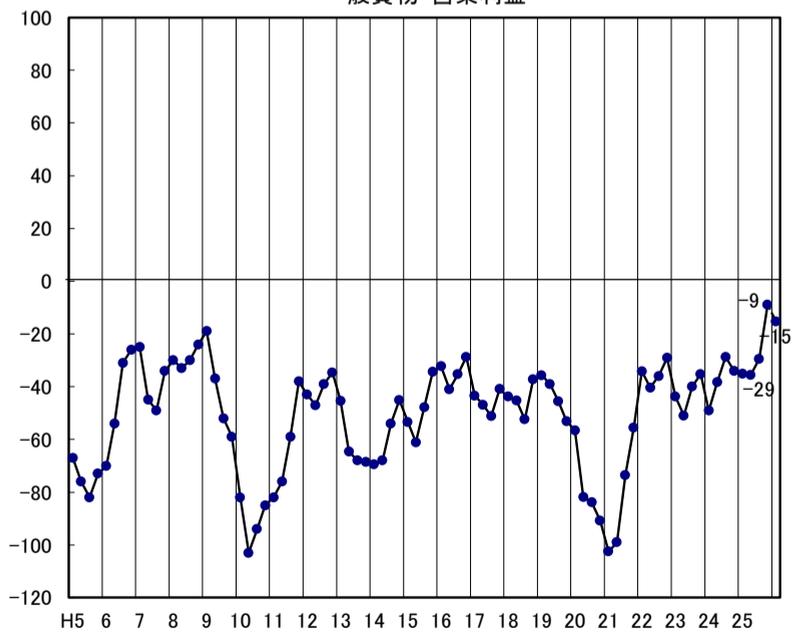
宅配以外の特積貨物・営業利益



宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準



一般貨物・営業利益

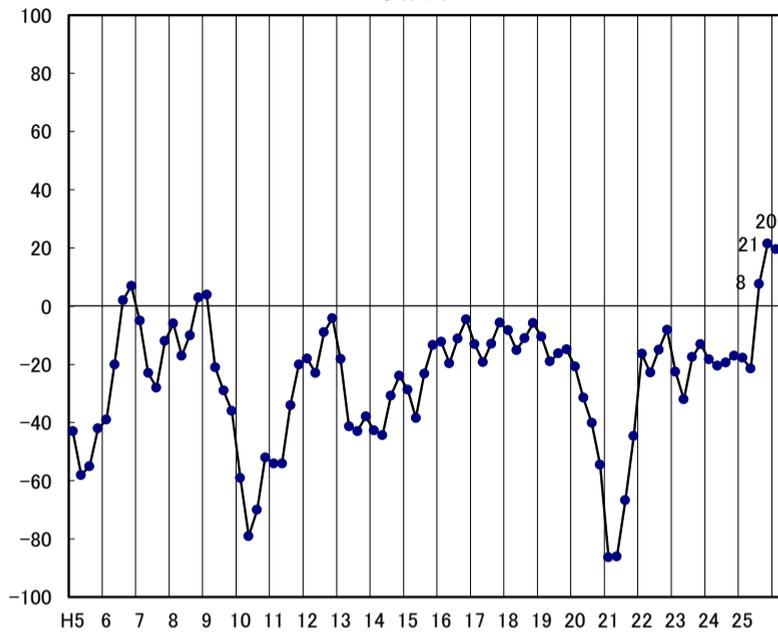


一般貨物・運賃料金の水準

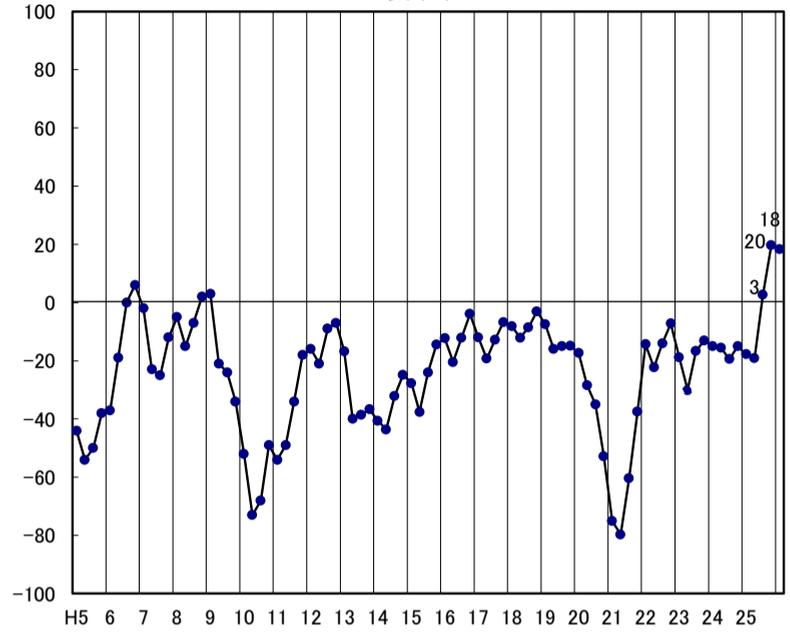


平成5年第1四半期～平成25年第4四半期実績、平成26年第1四半期見通し

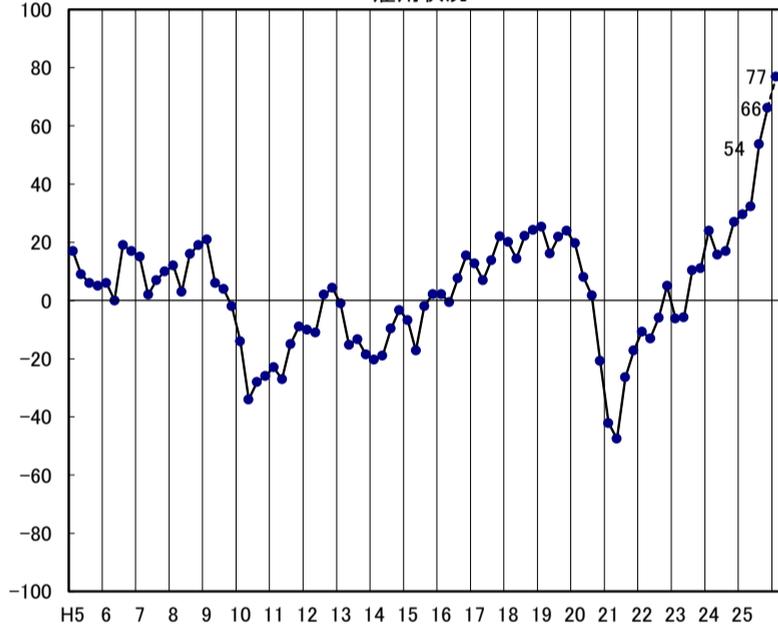
実働率



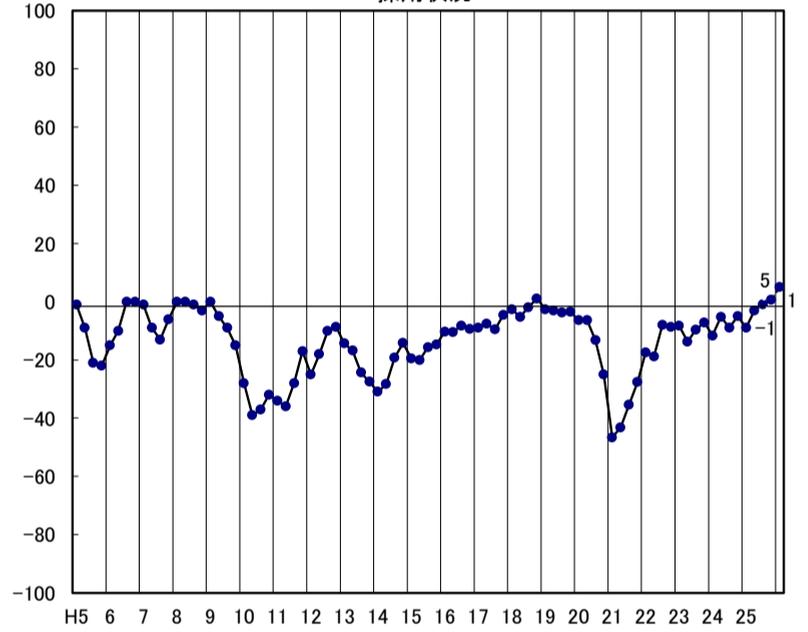
実車率



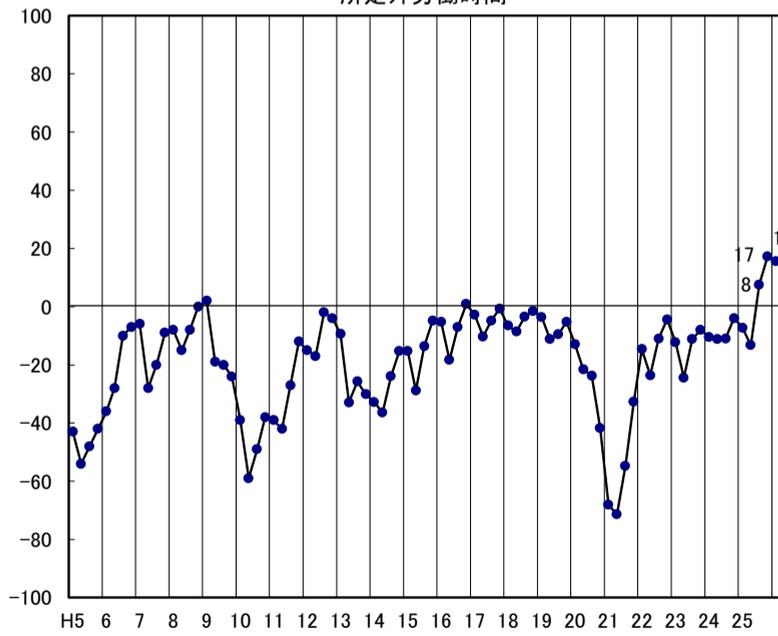
雇用状況



採用状況

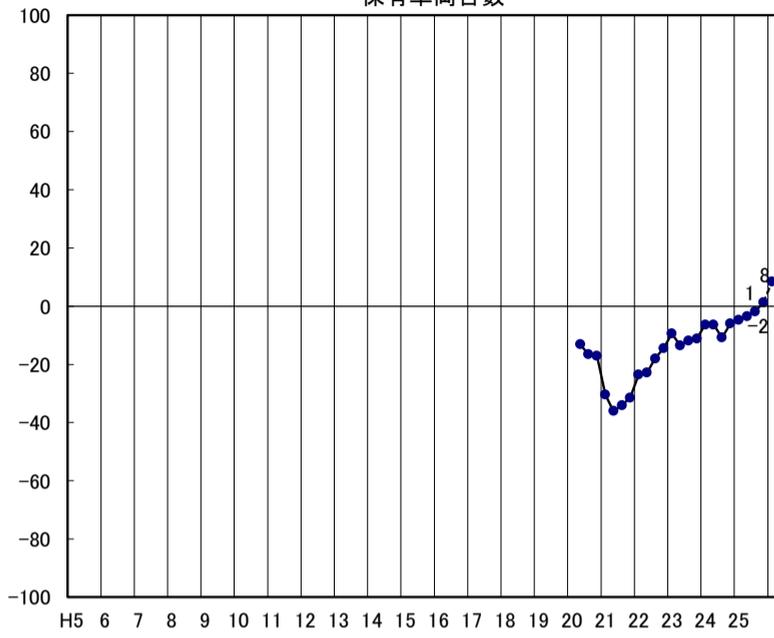


所定外労働時間

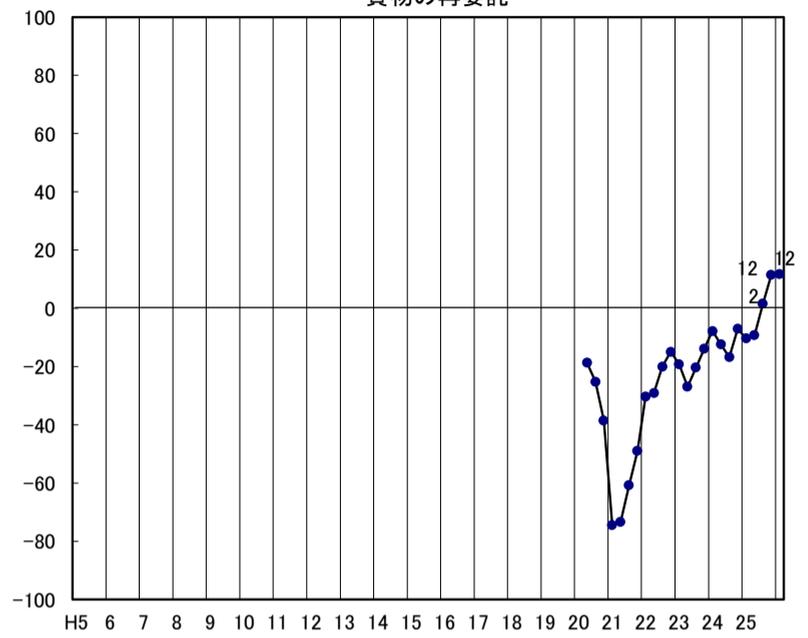


平成5年第1四半期～平成25年第4四半期実績、平成26年第1四半期見通し

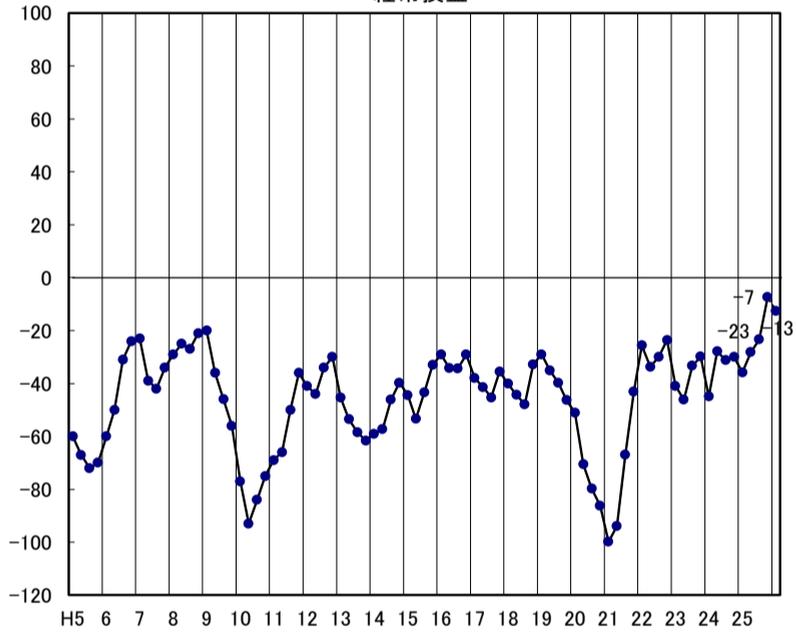
保有車両台数



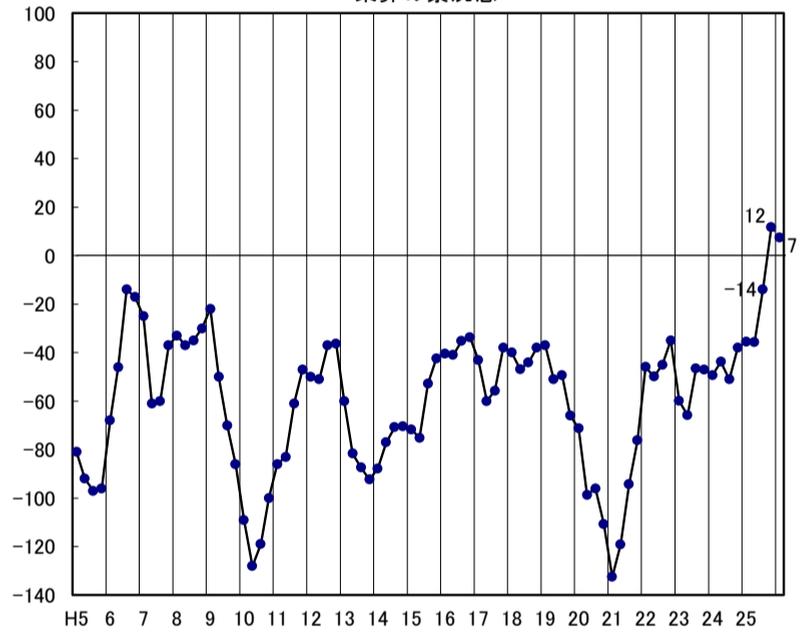
貨物の再委託



経常損益

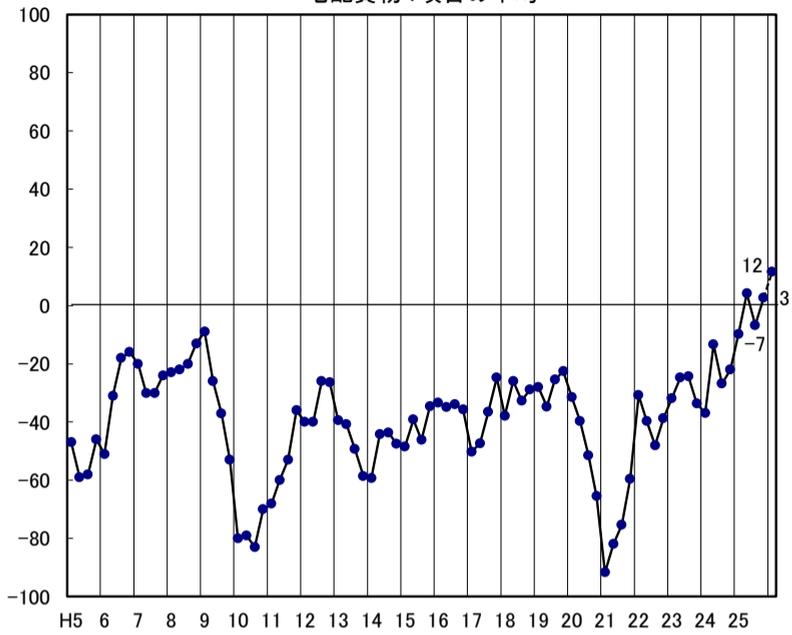


業界の景況感

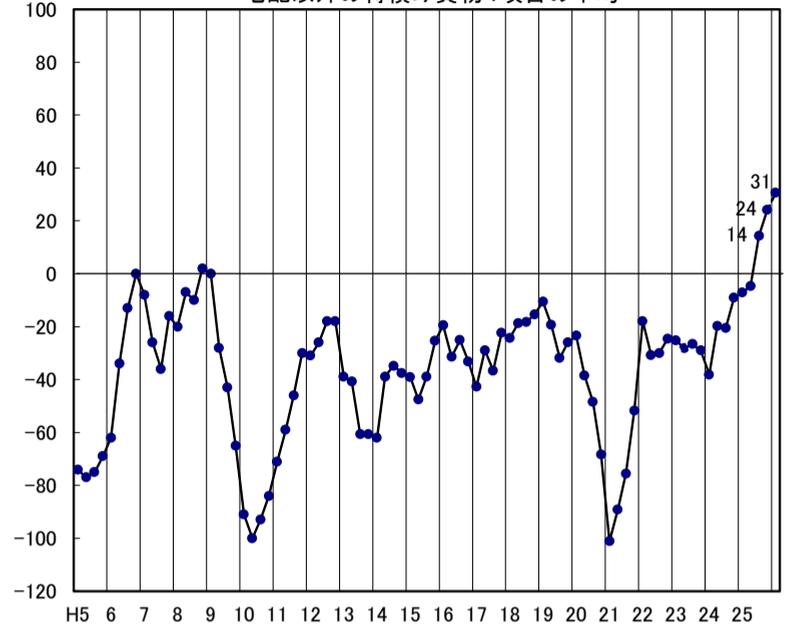


平成5年第1四半期～平成25年第4四半期実績、平成26年第1四半期見通し

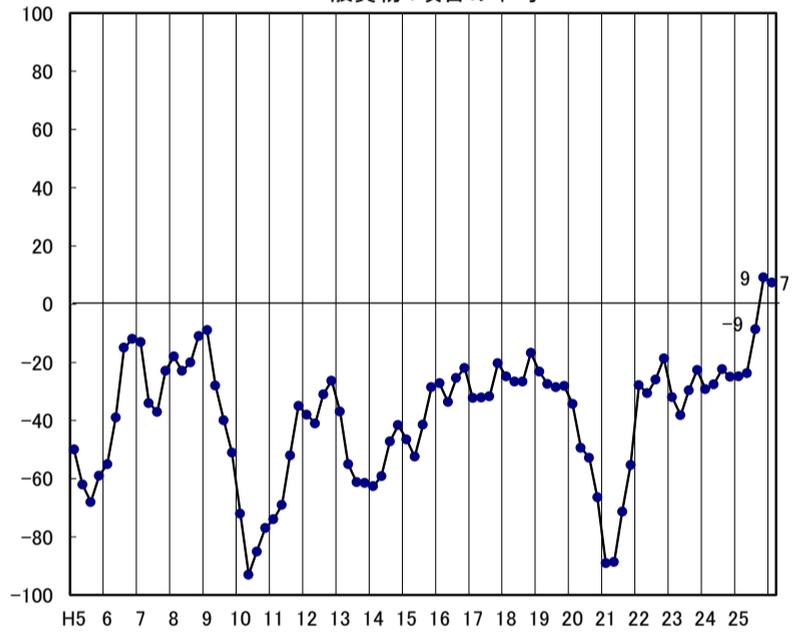
宅配貨物4項目の平均



宅配以外の特積み貨物4項目の平均



一般貨物4項目の平均



全項目の平均

